

「イサクとアビメレクの契約」

2021年03月12日

すると彼らは言った。「主があなたと共におられることがよく分かったからです。そこで、私たちの間で、つまり、私たちとあなたとの間で誓約を交わしてはどうかと考えました。私たちはあなたと契約を結びたいのです。私たちはあなたに害を加えることをせず、むしろあなたに良いことだけをして、平和のうちにあなたがたを送り出しました。そのように、あなたも私たちに悪いことはしないでください。あなたは今や、主に祝福されている方なのです。」(創世記 26 章 28 節～29 節)

イサク一族は平穩に暮らしていたが、ある時、ペリシテのアビメレク王がイサクの所に友のアフザトと将軍ピコルを連れてやって来た。供の者たちは軍事力を背景にして、恫喝するためである。イサクは、彼らの訪問をいぶかり、「あなたがたは、私を嫌って追い出したのに、どうしてまた私のところに来たのですか」と問うた。するとアビメレクは、「主があなたと共におられることがよく分かったからです。そこで、私たちの間で、つまり、私たちとあなたとの間で誓約を交わしてはどうかと考えました。私たちはあなたと契約を結びたいのです」と言った。イサクは神が共におられ、豊かに恵まれている。そこで、イサク一族と平和友好条約を結びたいと、アビメレクは申し出ている。嫌がらせを受けて、立ち退き、行った先でも、井戸を掘りだし、益々栄えているイサクと契約を結び、共生を図りたい。イサク一族に恐怖を感じていたということである。アビメレクは続いて、「私たちはあなたに害を加えることをせず、むしろあなたに良いことだけをして、平和のうちにあなたがたを送り出しました。そのように、あなたも私たちに悪いことはしないでください。あなたは今や、主に祝福されている方なのです」と言っている。彼は、イサクに害を加えず、良いことをして送り出したと言っている。あれだけ虐げて、追い出したにもかかわらず、よくこんな言葉が出てくるものだと思える。しかし、世の支配者たちは、こうしたものではないか。あなたがたに良くしたので、私たちにも悪くしないでほしいと願っている。イサクが神に祝福されている事実の前に、いわば、降伏しているのである。イサクは、彼らのために宴席を設け、一同は会食した。相手に対し親切を尽くし、敬意を払っている。翌朝、早く起きて、互いに契約を交わした。イサクは彼らを送り出し、彼らは平和のうちに去って行った。イサクは将軍ピコルからの襲撃を受ける心配はなくなった。アビメレクも、安心して自分たちの豊かさを守ることができる。双方は平和友好を確保できた訳である。その日、イサクの僕たちが来て、自分たちが掘った井戸について、「水を探し当てました」と報告した。イサクは、次々と井戸を掘り当てている。

族長の中では、イサクは影が薄いようであるが、私はイサク像を下記のように想像している。体は小太りで、顔はどこまでも柔和である。父アブラハム、母サラから愛され、何不自由なく成長し、深刻に争い合うことはなかった。素直に自分らしく生きて、それが通って来た。美しく、しっかり者の妻リベカに支えられ、穏やかで、幸いな人生を送って来た。誰もが、イサクのようになりたいと願うのではないか。

イサクとリベカの長男エサウは 40 歳の時、ヘト人ベエリの娘ユディトと、エロンの娘バセマトを妻に迎えた。異教徒ヘト人の娘、しかも二人の女性と結婚した。彼は、信仰はどうでもよく、欲望のまま、今を突っ走る野生の人であった。エサウの結婚は、イサクとリベカにとって、心の痛みとなった。